

会津駒ヶ岳山行報告



【山行日】 2017年 3月 25(土) 快晴
【集合】 栃本市運動公園P AM 4:00
【費用】 マイカー1台 : 3,600円
【メンバー】 CL:鈴木、伊藤、岩淵、香川
【コースタイム】 栃本市運動公園P4:00＝登山者
P6:50/7:10～駒ヶ岳登山口 7:50～ヘリポート 8:40
～水場 10:00～会津駒ヶ岳 12:10/12:40～
水場 13:40～駒ヶ岳登山口 14:30～登山者P
15:25/15:35＝道の駅「たじま」16:30/16:45＝
栃本市運動公園P18:10

今季のメイン雪山山行として、会津駒ヶ岳に登る計画をした。この日に備えて雪山山行を何回も計画し、アイゼンワークやスノーシュー歩行のトレーニングを積んで臨んだ。

天は我々に微笑んでくれ、これ以上望めない無風快晴の天気を与えてくれた。東北道を北上し、西那須野塩原 IC から R400を進み桧枝岐の登山口を目指す。途中から R352へ入ると路面が雪道になり、スピードを控えて慎重に運転する。桧枝岐の登山者用駐車場入り口を見過ごし、役場の先でUターンし駐車場に入った。

駐車場はほぼ満車で、奥のスペースに横向きで駐車し出発の準備をする。

駐車場の奥にあるトイレは、冬季は使用不可。準備を整えたら、各自ストレッチを行い出発する。

国道に出て右に200mくらい進み、会津駒ヶ岳登山口の看板を右に折れ下ノ沢沿いに進む。

二つ目の上ノ沢に掛かる橋を渡った先から、左の杉林の中に付けられたトレースを登って行く。



傾斜が急になり、九十九折れに登ると林道に出て、少し進んだところが滝沢登山口の駐車場。ここでアイゼンとスノーシューを付ける。ヤングの2人はスノーシューを付け、シルバーの2人はアイゼンを付けた。ヘアピンカーブの先から冬季限定ルートが伸びており、トレースを辿って登って行く。谷をトラバースして横切り、少し先の尾根を登って行くが、尾根の登りは急で辛い。尾根の上部は雪にクラックが入り、はまらないように慎重に登る。平らに開けた場所に出て、

ここがヘリポート跡地で夏道と合流する。東側の展望が開け、小休止して展望を楽しみながら水分を補給する。ここからブナの原生林を歩くようになり、傾斜がきつく辛い登りだ。アイゼン組は



雪を踏み抜き、脱出するのにかなりの労力を要する。ほぼ中間点の水場付近で休憩し、アイゼンからスノーシューに付け替える。



スノーシューに替えると踏み抜きは無くなったが、脚への負担が大きくなり疲労する。

ダケカンバとオオシラビソの混交する尾根を、九十九折れに登って行くと左手に日光連山が望めるようになる。さらに登ると燧ヶ岳が見えるようになり、小休止してエネルギーを補給する。1800mを越えたあたりから右手に会津駒ヶ岳の稜線が見えるようになり、「ウワー綺麗」と歓声が上がる。

たおやかな雪稜を見ながら、モチベーションが

上がり高度を稼いで行く。ところがこの後アクシデントが起きる。I 藤さんは駒の小屋までと言い、我

輩も右足の大腿部が攣ってしまう。仕方が無くヤング2人は頂上目指して登り、シルバー2人は駒の小屋を目指すことにする。

ヤング組はルンルン気分で登って行く。

シルバー隊は一步一步ゆっくりと歩を進める。

ところが、すぐ先で駒の小屋と山頂への道が分かれ、山頂へは冬季限定直登ルートが出来ていて我々を誘惑する。I 藤さんに「あと20分頑張れば頂上へ着けるから登りましょう！！」と声をかけ、ヤング組を追いかける。



シルバー隊の意地と根性を見せてやろうじゃないかと、2人で声を掛け合って頑張り無事山頂へ着いた。4人で手を取り合って登頂を喜び合い、記念写真を撮ろうとしたら驚いた。



先週ネットで山頂の様子を見たら、山頂の標柱が50cmほど出ていたが、今日は完全に埋まっていた。1週間で50cm以上積雪が有ったと云うことだ。我輩は山頂の標柱に腰かけて、記念写真を撮ることが夢だったのでとても残念。気を取り直して記念写真を撮り、360度の展望をおかずにランチタイムとする。山頂からの眺望は素晴らしく、越後駒や平ヶ岳、浅草岳等の越後の山々や日光連山から那須の山々が一望できる。無風快晴の天気恵まれ、最高の眺望を堪能

することが出来、超ラッキーだった。まだまだ眺望を楽しみたいが、山頂を後に下山する。

下山は往路を忠実にたどり下って行く。下りは快調に歩き、予定より少し早く登山口駐車場に着いた。好天で道路の雪も融け、車は快調に走り予定通り栃木市運動公園Pへ帰着出来た。